

「兄弟たち、エジプトに下る」

2021年06月24日

ヨセフは国を治める者として、国のすべての民に穀物売る責任者であった。ヨセフの兄弟はやって来て、顔を地に付けてヨセフにひれ伏した。ヨセフは兄弟を見て、彼らに気付いたが、そしらぬ振りをして、厳しい口調で言った。「お前たちはどこから来たのか。」彼らは答えた。「食料を買うためにカナン地の地から来ました。」(創世記 42 章 6 節～7 節)

舞台は、カナンにいたヤコブ一家に替わる。カナンにも飢饉が襲い、ヤコブ一家も食料に窮し始めた。ヤコブは息子たちに、「どうしてお前たちは顔を見合わせてばかりいるのだ。聞くところによると、エジプトには穀物があるというではないか。エジプトへ下って行って穀物を買ってきなさい。そうすれば、私たちは生き延び、死ぬことはないだろう」と言った。そこで、ヨセフの兄弟たち 10 人が穀物を買うためにエジプトに下って行くことにした。この時ヤコブは、愛妻ラケルが産んだ末の息子ベニヤミンが危険な目に遭うのではないかと恐れ、エジプトには行かせず、手元に置いていた。ヨセフの亡き後、ベニヤミンを溺愛していたのである。

エジプトの宰相になったヨセフは国を治め、買い求めに来る諸国民に、穀物売る責任者であった。ヨセフの兄弟たちはエジプトに辿り着き、ヨセフの前で顔を地に付け、ひれ伏した。ヨセフは彼らを見て、一目で兄弟たちと分かったが、そしらぬ振りをして、厳しい口調で、「お前たちはどこからやって来たのか」と問うた。彼らは、「食料を買うためにカナン地の地から来ました」と答えた。自分たちが奴隷として売った弟ヨセフが、エジプトの宰相に出世していたなどとは、思いもよらぬことであった。ヨセフはかつて兄弟たちが自分にひれ伏す夢を思い出し、その光景を目の前にしたが、「お前たちはこの国の内情を探りに来た回し者だ」とスパイ扱いにした。彼らは、「いいえ、ご主人様。私どもは食料を買いにやって来たのです。一人の男の息子で、正直な人間です。僕どもは回し者などではございません」と答えた。しかしヨセフは、「いや、お前たちはこの国の内情を探りに来たに違いない」と、嫌疑をかけ続けた。彼らは、「僕どもは十二人兄弟で、カナン地の一人の男の息子です。末の弟は今、父と一緒におりますが、一人はもうおりません」と、父と末の弟といなくなった兄弟の家族構成を述べ、スパイでないことを言い開きしようとした。ヨセフは、父ヤコブの健在と、同じ母ラケルが産んだ末の弟ベニヤミンが父の下で暮らしていることを知り、父と弟をどんなにか懐かしく思ったことであろうか。しかしヨセフは、「お前たちは回し者だと私が言ったとおりだ。そのことで、私はお前たちを試すことにする。ファラオにかけて誓う。末の弟がここに来るまでは、お前たちはここから出ることはできない。お前たちのうち、誰か一人を行かせて、弟を連れて来なさい。それまでは、お前たちはつながれ、言ったことが本当かどうか試される。もしそのとおりでなかったら、ファラオにかけて誓う。お前たちは回し者だ」と、弟ベニヤミンを連れて来ることを要求した。そして、兄弟たちは三日間、監獄に入れられた。三日目にヨセフは、「命を助けてやろう。私は神を畏れる者だ」と言い、命令を出した。兄弟の一人を監獄につなぐから、他の者は、飢えている家族に穀物を持って帰ってよい。ただし、末の弟を私の所に連れて来なさい。そうすることによって、お前たちが正直な人間であることが証明され、死を免れることができる、と。ヨセフはベニヤミンに会いたかった。また、彼が自分と同じように兄弟たちから虐められてはいないかを確かめたかったのである。